

## 平成28年度 第2回白井市市民活動推進委員会会議録

1. 開催日時 平成29年1月23日（月）午後2時～4時
2. 開催場所 白井市役所3階第2会議室
3. 出席者 鍋嶋洋子委員長、林 章副委員長、市川温子委員、橋本皓次委員  
黒添 誠委員、押田知之委員、米澤拓也委員、上坂千昭委員  
嶋田昇二委員（名簿順）
4. 欠席者 赤間賢二委員、高安敬子委員
5. 事務局 豊田課長、松岡主査補、高瀬主任主事、新井主事
6. 傍聴者 1名

### 7. 議事

- (1) 平成29年度市民団体活動支援補助金制度の変更について [公開] (資料1)
- (2) 市民団体活動支援補助金の周知・PR と相談・問い合わせ状況について [公開]  
(資料2)
- (3) 市民団体活動支援補助金の審査に係る申請書類とその見方について [公開] (資料1)
- (4) これからの市民活動推進センターのあり方について [公開] (資料3)
- (5) 今後の会議日程について [公開]

### 8. 会議概要

- (1) 平成29年度市民団体活動支援補助金制度の変更について [公開] (資料1)

[委員長] では皆さん、資料の過不足はございませんでしょうか。次第に沿って進めさせていただきます。

1 番目が平成29年度市民団体活動支援補助金制度の変更についてということで、資料1に基づいて事務局からご説明、ご報告をお願いいたします。

#### <事務局より資料1に基づき説明>

[事務局] 第1回会議で補助金制度の見直し内容を説明し、その後、市で補助金要綱の改正手続及び新年度の予算協議を行った中で、見直し内容として前回説明した内容の一部について再考する必要が生じました。

再考して修正した部分は、活動促進型と活動発展型のそれぞれの補助金の上限額を活動促進型は10万円から7万円へ、活動発展型は30万円から25万円へ一部引き下げしました。ただし、補助率は当初の見直し内容のとおり、以前の補助率よりも高くなっています。また、市では補助金全体の見直しを3年に1度行っており、来年度がその年になることから、今回の補助金の申請状況や申請内容を考慮して、29年度にもう一度補助金の見直しを行うため、今回の補助金制度の見直し内容は、29年度補助金だけ適用するという

形となりました。

こうした一連の過程より 12 月 15 日から補助金申請を開始するところ、1 週間遅れて 12 月 22 日から補助金申請がスタートすることになり、ご迷惑をおかけしましたことをお詫びいたします。

[委員長] 今、市からのご説明、ご報告のところ、何かご質問、ご意見ありませんでしょうか。前回の委員会では、予算の確保がどのくらい確実性が高いのかというご意見があった中で、担当課で頑張りますということでしたが、前年度の実績をもとに財政担当で判断する中では、今回、担当課からご報告があった内容が、現状に見合っているだろうという総意になるのかなと思います。いかがでしょうか。

皆さま合意ということで確認させていただいてよろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

(2) 市民団体活動支援補助金の周知・PR と相談・問い合わせ状況について [公開] (資料 2)

[委員長] 議案 1 は終わりました。二つ目の市民団体活動支援補助金の周知・PR と相談・問い合わせ状況について、市からご説明、ご報告お願いいたします。

<事務局より資料2に基づき説明>

[委員長] 今のご説明、ご報告について、何かご質問ありませんでしょうか。

この問い合わせは、活動発展型と促進型でまだ振り分けて団体を把握されていないのでしょうか。

[事務局] 実際、どのような活動でどちらをお考えですかというようなことも相談でヒアリングさせていただいております。どちらかといいますと、活動促進型のほうが相談としては多い状況でございます。

[委員長] ○○委員はセンター運営をしていらっしゃるって、そのあたりはいかがですか。

[委員] そうですね。何団体か問い合わせがあったり、個人的にお話をさせていただいたところが何団体かあったり、もう今回は 3 年目だからもうもらえないという団体が 2 団体ほどありましたね。だから諦めて、説明は別に聞きに行かないというようなことも 2 団体ぐらいありました。○○さんの耳には何か入っていますか。

[委員] いや、入っていません。

[委員長] 別事業であれば応募ができるようになっていうふうには、なかなかないですよ。改めまして、この新しい事業というよりも、ずっと今までやってきた事業を継続的に拡充していきたいとかですよ。

ほかは何か、ボランティアセンター等でご案内はどうですか。

[委員] 私のところで募集要項を設置させていただいておりますけれども、今のところお問い合わせはありません。

[委員長] 使ってくださる、活用しそうな団体に、個別ご案内というのは難しいものですかね。

[委員] ご来所のときに、このようなことがありますよと口頭でご案内はしておりますけれども、なかなか反応には至っていないような状況です。

[委員長] ほかの委員の方、いかがですか。応募が少ないと中身変えたけれども、活用できない仕組みは嫌みたいな話になると思いますが。なかなか難しいですかね。

[委員] 前回と比べて問い合わせの数はどうなんでしょうか。

[事務局] 去年より今年は多いです。

[委員長] あと何日間か締め切りまであるので、サポートできるところはセンターに限らず委員の皆様も、少しお知り合いの団体にお声かけをしていただくということをお願いいたします。制度を変えた後の実績が、今後で考慮されると思うので、よろしく願いいたします。

[委員] ちょっと質問ですが、前回にヒアリングやりましたよね。それで応募してきたけれども、いただけなかったところありますよね。そういう団体はまた再度応募してきましたか。

[事務局] 見る限りはないですね。

[委員] ないですか。どうせだめだろうと思って1回で諦めちゃう。

[事務局] 1団体だけ今問い合わせが来ています。

[委員長] できれば少し修正をする形で、また改めて応募申請いただけるといいんですけどもね。

[委員] プレゼンテーションの仕方もいろいろあるからね。結構年配の方が多いところは応募が難しいかなと思っちゃう人があるかもしれないんだよね。やっぱり若くて勢いがある方だと、応募用紙とかも要領よくさっさと書けるんだろうけれども。お問い合わせあった場合は、市が説明を十分にしないとわからないですよ。

[委員長] センターにも直接お問い合わせはあるんですよ。

[委員] センターはないね。応募用紙は置いてあるんですけども、私の目の前で用紙持っていく方はなかったですね。

[委員長] 会議等でセンターを利用される団体も結構あるかなと思うんですけども。

[委員] ポスターと一緒に入口の一番見やすい部分に置いてあるんですけども、なかなか減らないですね。〇〇さんがよく来て、減ったかなと思って楽しみに見ているんですけども。

[委員長] まだ、あと少し時間があるので、すぐに申請書を書けないかもしれないけれども、迷っている団体には、ぜひ今回応募をしてみてねということを委員の皆様からお声かけをお願いいたします。

### (3) 市民団体活動支援補助金の審査に係る申請書類とその見方について [公開] (資料1)

#### <事務局より資料1に基づき説明>

[委員長] 実際の申請書類を見ないとなかなかわかりにくい部分はあるかと思いますが、ご質問は小さなところからでも結構ですので、何かありますでしょうか。

[事務局] 申請書類を送らせていただきまして、2月20日の会議の際には、一旦皆様にそれぞれ仮審査ということで、前回もそうだったかもしれませんが、得点は入れてきていただいて、こういったことを聞いてみようというような意見交換をしていただいて、3月1日の審査に臨んでいただいて、そこでプレゼン内容とか質疑応答のことを踏まえて、また採点の点数を上げたり下げたりとかってというような形の段階的な審査をしていきたいと思っておりますので、もし今、ご不明な点等がありましたら、ご質問いただきたいと思っております。

[委員長] はい、〇〇委員お願いします。

[委員] ご意見じゃないんですけども、感じたことでいいですか。

[委員長] はい、お願いします。

[委員] 4ページに提出書類がありますよね。1から9までこれだけたくさんの書類を出すということで、当然税金を使うわけですから、支援課としては当然これぐらいの書類の提出が必要だと思います。しかし一方、提出する側から見ると「えっ、こんなの出すの」って、言葉は悪いですけど、びびっちゃって二の足を踏むということがあります。だからバランスをどこに持ってくればいいのかですけども、それは感じたことで別に解決策ではございません。

それからもう一つは、これは当然、書類の整頓をされたとか、きれい、汚いというようなものが普通に評価すると、試験の点数をつけるのと同じように出てくると思うんですよ。あと、プレゼンテーションがあるんですよ。この場合は、プレゼンテーションの巧みな人のほうが絶対点数はよくなると思います。しかしながら、言葉は悪いですけども、稚拙な書類と下手なプレゼンテーションの中から、本当の不特定多数の市民の利益になる団体を見つけ出すという、これが我々の任務だと思うんですけども。それが例えば15の申請書類の作成、提出の確認ポイントがありますけれども、これをチェックすることによって、表面に見えるものだけではなくて、本当に不特定多数の市民になるかどうかということが、この確認ポイントによってチェックされて、見つけ出すことができるか。

[事務局] この10ページの確認ポイントは、申請書類を受理させていただくかどうかというところの、まず最低限度の体裁を整えていくために、これが見誤っては受理できませんというものになってまいります。実際の事業の中身だとか、目的や魅力だとか、そういったようなことを見ていただく際には、事業計画書に書いてございます12ページ、13ページのこういった記載の内容が中心になってくると思います。

そこで、なるべく私たちが知りたいということを意図するような事柄を、問いかけ形式で書かせていただいております。事業の目的ということだけで書いてしまいますと、12ページにございます何を書いていいのかわからないということで、その横には、事業を実施する前提となった理由、市民のニーズや地域の問題点や困りごと、地域課題等は何ですかというようなことだったり、目指すことや狙う効果は何ですかというように、こちら側から問いかけをさせていただいて、それに答えるような形で事業計画書を出していただきますので、この書き込み具合をよく見ていただくことによって、事業の本質ですとか、そ

の団体のこだわり、力の入れどころというのが読み込んでくれるかなというように思います。

[委員] はい、十分にわかりました。

[委員長] よろしいでしょうか。ほかの方、いかがですか。

[委員] 今、提出書類のほう見させていただいたんですが、駅前センターとかを使うときに公益性とか書類を出しますよね。駅前センターの予約を半額にする部分で出す書類ってあるじゃないですか。それを出せる団体であったら、ほとんど書けそうかなというように感じがするんですよね。内容的に大体あんな感じみたいだから。

あとは、プレゼンテーションのうまい下手ってというのは、それは我々が言葉の裏に何かあるか見抜かないといけませんよね。そのような責任が重大だと思います。

[委員長] ほかの方はご意見、ご質問等ありますか。

先ほど事務局から収支予算計画書で自立性が読み取れるよという話がありましたが、だから実現可能性とか総合的な要因も入っているよねっていうお話もあわせてありましたけれども、事業内容を読み取る提案書のところには理念や具体的な事業内容はあるんだけど、収支のところを見るとできそうでできないんじゃないと。参加人数の設定が500人になっていて、この規模、あの内容で500人集められるのかとか。参加費収入のところは1人2,000円になっていて、そんなに予測どおりに人が来るのかしらとか。あと、事業内容になかなか沿っていないような桁違いの数字が入っているよとか。収支はきちんと見ていただいて、全般のところの趣旨、目的と事業内容等とあわせて見ていただくと、その審査がより適切になるかなというふうに思います。

〇〇委員がおっしゃられたように、内容的には決してハードル高いものではないかなと思います。審査する上ではこのくらい書いていただかないと、逆になかなかわかりにくくて、プレゼンのそれこそ上手下手だけで、要は表現力だけで、アピール力だけで見るというのではなくて、きちんとこの文章でも見た上で当日のプレゼンを聞いて、また少し訂正をしていただくというところがいいのかなとは思いますが。

あと、プレゼンのサポートなんかを、私どもも富里と四街道のセンターのコーディネーター育成とか、センター運営のところを事業として委託実施していますけれども、結構そこをサポートする役割があると思います。市の担当課が直接すると、何かプレゼンの仕方を誘導しちゃうとか、それをうまくやっておけば採択するよみたいに取り違えられてしまうので、センターがサポートしていただいてもいいかなと思います。例えば5分のプレゼンだったら、5分全部、自分の団体の紹介で終わっちゃうみたいなのが往々に特に年齢高い方だとあったりするので、団体の活動は、本当に最初の入口の5分の1ぐらいにして、5分の4はちゃんと活動内容や今回提案した趣旨、目的、事業内容をきちんと伝えるような時間配分だとか、自信のない団体はプレゼンのリハーサルを見てこれでいいかとか、センターでサポートをしてもらえたらなと思います。

ほかにはありませんでしょうか。

[事務局] ちょっと済みません。

[委員長] はい、お願いします。

[事務局] 今、委員長から補足のご意見等いただきましたけれども、19ページの事業計

画書の上段に書いて四角く囲ってあるところが、今、委員長からご指摘をいただいたこととなります。事業計画書のちょうど事業名とか事業概要のところ、四角い欄で囲ってあります。「事業計画書の相互の関係性を見る視点」ということで、事業の目的と事業の内容ですとか、事業の目的と実施体制とか、そういったものがつながっているかですね。目的は合致しているけれども、内容や体制が伴ってないとかいうようなことがないかとかですね。

2番目は、事業の内容、実施体制、事業スケジュールとの関係性が整合がとれていて、こういう内容で、こういう体制で、こういうスケジュールっていうのは無理がないかとか、今、委員長のご指摘いただいた部分というのがこの欄にあるということで、見ていただけたらと思います。

[委員長] これだけでは、なかなか説明聞いてもピンとこない部分もあると思いますので、そういった意味では、前回もそうだったんですが、ご自分で少し仮審査をしていただいたものをもとに審査委員会の中で少し意見交換をして、いろいろ少し出し合う時間をつくっていきたいと思います。ほか、何かありますでしょうか。

[委員] 済みません。もし、わからないことがあったら、〇〇さんから教えていただけますよね。よろしくお願いします。

[事務局] はい。ぜひ、お気軽にご連絡ください。

[委員長] 結構、補助対象経費と補助対象外経費の区別で、外部講師のお弁当はいいけれどもスタッフ弁当は対象外とか、ご相談があった際にも対応をしていただいているかと思いますが、審査の中でも結構この部分が曖昧になりがちなので、ちょっと気をつけていけたらなと思います。ほかはよろしいでしょうか。

ということで、議案の三つ目まで終わりました。次第見ていただきたいと思いますが、四つ目が、これからの市民活動推進センターのあり方についてということになりますので、補助金審査、補助金関連のところは、一旦これで議案としては終わりになりますが、全体を通しては何がございますか。よろしいでしょうか。

#### (4) これからの市民活動推進センターのあり方について [公開] (資料3)

[委員長] では、議題の四つ目として、これからの市民活動推進センターのあり方についてに入りたいと思います。本委員会は補助金の審査だけではないという位置づけになっています。

白井市の市民参加・協働のまちづくりプランには目指す方向や一定の指針が記載されていて、このプランに掲げたとおりに推進されると、理念と市民参加や協働の仕組みの両方がかなり整い、白井が素敵なまちになると思います。皆さんもこのプランを見たことがあると思いますけれども。

[委員] センターに置いてありますよね。よく目を通していますよ。

[委員長] 赤間委員から以前の会議でこの委員会とプランをつくった委員会との関係性についてご質問いただいたと思います。このプランは、内容として結構よく書かれていて、目標としての目安の年限も入っていて、何年にはここまで具体的に仕組みと事業を進め

ていきます、いきましようというプランになっています。

本日はこのプランの中にも位置付けられ、委員会としても期待の大きい市民活動推進センターのあり方について、このプランの中から資料を抜粋していただき議題といたしました。

推進センターの運営委員会やスタッフの方が全員同席しているわけではありませんが、〇〇委員をはじめ数名の人たちがいらっしゃる中で、市民としても、委員の皆さんも期待感が大きい庁舎内に移転する市民活動推進センターの現状や今後について意見交換をしていきたいと思います。資料含めて担当課からご説明お願いいたします。

#### <事務局より資料3に基づき説明>

[委員長] はい、ありがとうございます。ということで、8 ページ目に「6 意見交換 市役所移転後の市民活動推進センターに必要な機能とは」とつけられています。今のご説明の中で、推進センターに求められる機能をくまなく出していただいたなという感がありますが、ここを全て追及していくと難しさもあるでしょうし、今のニーズ、実態状況、できることを踏まえた上で、目指していくことはきちっと設定をして到達していく必要があります。感想でも結構ですし、少しずつご意見をいただいて、また欠席の方の意見もお聞きしながらと思いますが、皆さんいかがでしょうか。はい、〇〇委員。

[委員] 現在の活動センターになくて、特に今回は5番と6番に力を入れたいと先ほどお話ありましたけれども、この5番の交流促進、それから6番の人材育成機能、その中で特に今までになかったけれども、これには力を入れたいというものがあれば、もうちょっと具体的にお話しいただきたい。

[委員長] 〇〇委員は個人的にはいかがですか。今、市の意向を聞くというよりは、市民として、ここの委員の皆さんが委員としてご意見をいただくということで、〇〇委員のお考えをお聞かせいただければと思います。

[委員] これだけの業務全てを行うのであれば、スタッフ、それから面積等では、かなり広がるのかということを知りたいです。恐らくならないと思うんですけども。

[委員長] 予算やスタッフの配置に関するご質問ということで、事務局からお願いいたします。

[事務局] 推進センターのスペースは、今まで会議室が1個だったものが2個となり、会議室自体は増えるという形になります。

スタッフについては、今、土曜日は9時から21時までやっていますが、平日ですと9時から13時までが1人、その後交代で13時から15時までが1人という形ですが、こちらに移ってきますと、相談業務等が多くなったり、団体間の調整も入ってくるかと思うので、2人ぐらいいはいたほうがいいのかと考えます。

[委員] この内容で2人じゃまず無理だね。この5番、6番の内容をこなすには、最低でも3人は必要ですよ。コーディネーターさんがいるのであれば、スタッフさんは2人で大丈夫かもしれないけれども。今後はコーディネート機能もやるわけですよ。

[事務局] そうですね。

[委員] そうすると、ほかのところを見ても、大体3名ないし4名ぐらいいますよね。今まで我々が見てきた鎌ヶ谷にしても、印西にしても、推進センターみたいな機能をやっているところは、最低でも4名ぐらいいるでしょう。浦安はもうちょっといましたね。

[委員長] 4名常時は難しいですが、1人だと電話がかかってくるのに誰かが来ても相談対応もできないし、お手洗いにいくにも大変です。また、研修にもなかなか参加できません。2人常時の配置で交代制で、研修とかミーティングとか企画やイベントがあるときには、3人、4人に増やせるような予算設定の仕方がいいのかと伺っていました。これだけのものを見据えてやるんだとしたらスタッフが大事だろうということですね。

[委員] そうですね。今でもかなり負担かけているから。

[委員] ちょっとよろしいですか。

[委員長] はい、お願いします。

[委員] 私はまだ3年目なので、この推進センターの成り立ちとやいきさつがよくわからないんですけれども。支援課とセンターとの役割がどういう形で進んできたか、その関係で何か新しい問題点が起きているのかとか、その辺をちょっと総括していただきたいと思います。

[委員長] 担当課とセンターの役割や関わりを含め、事務局からお答えいただけますか。

[事務局] 平成15年12月にセンターを設立したことを先ほどご紹介させていただいたんですが、当時、市民活動団体の団体数が今よりは少なかったんですけれども、そういった団体と市が研究会を設けまして、市民活動を活性化させるためには拠点となる施設が必要だということで提言をいただいた中で、市が設置をした施設となります。

設立から十数年経過して、その中でいろいろな活動推進にかかわる事業を展開してきましたが、先ほどご紹介したとおり、運営について市が直接行うよりも、市民活動に詳しく、必要な支援を必要な方にお届けできるような運営が必要だということで、団体で構成する組織が立ち上がって、一部委託をしているという形となっています。

運営自体は団体で構成する組織でお願いしていますが、施設の設置とか、中に置く備品は市が役割を持っており、ソフト面で今の運営委員会さんに委託という形を出させていただいています。ただ、この委託については、一方的にこれとこれをしてくださいという一般的な委託ではなく、役割分担を協定という形で設けまして、こういうものについては、推進センターはこういう役割、市はこれについてこういう支援をしますよという、それぞれ事業別に役割分担を設けて、現在行っている状況です。

[委員長] ○○さんから補足や追加のご説明はありますか。

[事務局] 市との関係というか、一緒にスタッフ会議とか委員会の会議に出させてもらって、内容等を一緒に検討しながら事業を進めております。

[委員長] この運営協議会という形が他市では余りなくて、松戸も協議会っていう名前ですけれども、団体を立ち上げてそこが指定管理者に応募するというものです。構成の中に複数の団体がありますが、指定管理者になっているのは、一団体として指定管理を受けている形ですが、白井の場合は、一つの団体というよりも複数の団体がかかわっているということで、○○委員どうですか。



[林委員] 申しわけないんですが、運営協議会ではなくて、今は運営委員会になります。

[委員長] 失礼しました。運営委員会が一つの団体というよりも複数の団体が集まってということですね。

[委員] そうですね。団体から出していただいて、運営をさせていただいています。今は非常に市といい関係だと思えますよ。

[委員長] 関係性はいいということですね。先ほどの市のご説明にはなかったんですが、少し前になかなか担い手がないということで、引き受けていただけなかったという話もちょっと伺ったことがあります。

[委員] 一度市にお戻しするというお話があったんですけども、せっかく市民でやっているものだから、何とか市民でやりましょうということで、お声かけして何人か集めて、私が引き受けるという形で始めさせていただいたということです。

前までやっていた人がもうやりきれないから市にお戻しすると言ったんだけど、せっかく市民で運営しているものを、ここで市にお戻しするというよりも、市民自体で頑張っていこうじゃないかということで、現状やっています。

委員が若干少ないですよ。団体さんは、市民活動まつりや何かのときには皆さん来ていただけるんだけど、それぞれ皆さん忙しいから、なかなかこういう運営委員というのをやりたがらないところもあって大変ですよ。

[委員] NPOでやっているところは、ちゃんとスタッフが携わっていて、たまたま推進センターは、各団体から出してもらって運営や活動をやっています。

今、市民活動まつりはその都度集めてやっているんですけども、今現状の5人でスタッフをして4時間交代でパート的な仕事ですから、今度から交流のコーディネーター、相談役が必要になり、機能がこれだけ増えると、もうちょっと充実させていかないといけないと思います。

[委員長] 担い手不足なのは、運営委員会という形をとっているがためなのか、どういうセンターにしていきたいのかトータルで見えてこないからなのか、そのあたりはどうなんでしょうね。

[委員] 団体間の横のつながりがあまり見られないですよ。結局、じゃあ何とか手を貸しましょうという方が集まってやっている状況です。仲良く運営しているんだけど、何せ皆さん団体ごとに代表をやったりしている人だから、忙しいのは忙しいんですよ。あと、年齢とともに健康状態もあんまりよくない方も出てきてたりしています。だから今後は、若手の起用を考えていかないといかんかなと思っているところです。

[委員長] 今、目指しているところで書かれているこの機能が、先ほどもありましたけれども、中間支援組織は、要は人と人、人と団体とか、多様な主体を含めて、そこをつないでいくハブのような役割を果たしていくときには、センターを運営していく人たちの姿がその事業内容と重なってこない、なかなか難しいのかなというふうに思いますが。

[委員] いいですか。

[委員長] はい、どうぞ。

[委員] ここに求められる機能とありますが、これを全てやろうというわけではないんですよ。当然この中から選択していくわけですよ。

[事務局] 一般的に求められる機能を全部集めていくと、これだけのものが想定できませんということです。

[委員] これを全てやろうとするとそれこそ人が足りないから、当然のことだと思います。ただ、余り悲観的なことばかり言ってもいけないですね。明るい見通しは、市役所の1階だっていうことですよ。

白井駅前センターは、駅には近いし中心なんですけれども、公民館の一つにしかすぎませんから、来ない人は全然来ないと思うんですよ。しかし市役所は、1階を通らなければ2階にも行けないし3階にも行けないということで、そこに相談コーナーを設けるということは、フラットで入りやすさがあるでしょう。ドアはあるの。

[事務局] 一応ドアはありますが、ガラス張りになっていて、中が見えるようになっています。

[委員] 一つの建物の中に入っちゃっているから、ショップインショップみたいなもので、入りやすいということは、市役所に訪れる全ての市民、もしくは市民じゃない人もそうですけれども、目に触れるということですね。ですから、このコーディネート業務は、市民活動推進センターに求められる最大の機能で、これから求められるものと思います。ボランティア協議会にも相談コーナーみたいのがありましたっけ。

[委員] ボランティアセンターで、社協の事業として、今コーディネーターを置いてやっています。

[委員] 結構いろんなところにあるんだなというふうに思いましたけれども。今度、市役所の1階にそういうものができるとすれば、人を集める面では明るい話ではないのかなと思います。

[委員長] 今出された社協のボランティアセンターとは、どう違うんでしょうか。

[委員] 社協がやっているボランティアセンターですので、どうしても依頼が高齢者の生活支援ですとか、個別支援的な依頼が多いというところもありまして、もちろん団体さんにもお願いすることもありますけれども、その個人ボランティアさんでの個人対応とかという調整やコーディネートがとても多いんですね。

ですから、一度市民活動推進センターさんとも、広い意味では目的としていくものですか目指すものは、とても近いところがあるので、これからどういう形で連携していけるかということの話し合いを持ったこともありましたが、なかなか現実的には近づいていけないという、ちょっとそういった歯がゆさもあるんですね。

[委員] 社協は福祉関係が強いですよ。

[委員] そうなんですよ。福祉分野の市民活動になると思うんですよ。

[委員] 今後は近くなるから。

[委員] そうですね。

[委員長] 今の延長で相談コーナーとか交流について対応していくことがこれからのセンターとしてイメージできるのかどうか。センターにどういう人が配置になって、どういうふうな対応ができるのかということイメージしてつくっていかないといけないと思いますね。

会議室が今度二つありますと、市役所の1階ですごく便利がよくなったから、会議室の

利用とか印刷機の利用はあるんだけど、この交流とか相談という機能を高めていかないと、情報のストックもできないかなと思うのですが、このあたりはどうでしょうね。  
[委員] センターが役所にあると、今に比べて市民性がかなりよくなると思うんですよ。駅前センターの隣にあることを知らない人が、随分いるみたいなんですよ。要するに、市民活動推進センターをいまだに知らない人がいるから、その面では非常にプラスにはなると思います。

[委員長] そうですね。市民には目に映ってより近くなりますよね。

ここにいろいろ目指すところが期待感として書いてありますけれども、それを具体化していくためには、具体的な機能とかスタッフの配置も含めて、どう進めていったら目指す事業が実現できるんでしょうかね。〇〇委員いかがですか。

[委員] 余りきょうはしゃべるのをやめておこうと思ったんですけども、指名されましたので。市民活動推進センターの方がいっぱいいらっしゃるの、皆さんおわかりだと思っておりますが、私は全然そこら辺には絡んでなかったの、わからない部分がいっぱいあります。

市民活動推進センターが1階にできると、活動支援課はどこへ行くんですか。

[事務局] 隣です。

[委員] 隣ですか。それだったら活動支援課と市民推進センターとの役割っていうんですかね、それこそ立ち位置がある程度わかると思うんです。

ですから、お互いが協働し合って市民活動支援課からの業務委託を受ける形になれば、まさしくその5番目に書いてあります交流促進、コーディネートといったようなことができてるのではないのでしょうか。

小学校区の地域のいろんな団体間の連絡調整が全然できてないというのがありますので、そういったものをうまく調整していただけるといいと思いますね。それは市民活動支援課でもいいんですけども、センターでもいいから来て、まとめて、こういうことをやりましょうよという、そういうものが何かあったらいいかなと思ったので、その意味では、市役所の中に来ることはいいのではないのでしょうか。市からの業務委託を受けるのであれば、センターが人件費も含めた補助金を交付できるような団体になっていれば本当はいいんでしょうけれども。

さっきのNPO法人でどこかがあるんですかね。ここら辺はそういうふうにスタッフが集められるっていうのであれば、専従の人を1人か2人置いておくというのが非常にいいことだと思います。そういった意味の機能強化にはいいときだと思いますので、興味深くこれ見ていました。

[委員長] 私どもが今やらせていただいているのは、富里市と四街道市のセンターですけども、富里は直営でコーディネーターを市の職員として雇用していて、そのコーディネーターを育成する業務を私どもは請け負っていて、オープン前にも半年近くその方たちの育成指導を行いました。まだオープン前ですから、私どもの事務所とかセンターに見学に行って、オープン後は私どもが週に6回ぐらい入る中で、団体の方が来たらまず活動内容をお聞きしながら、何を求めているか、課題を引き出しながら、それにアドバイスをさせていただくということと一緒にOJT業務としてコーディネーターの育成をや

らせていただいています。

あと、四街道は事業として受託しています。公募して私どもが応募する形でやらせていただいているので、3年のスパンなんですけれども、3年間でどういうセンターを目指して、具体的な事業はどんなことをするというのを提案させていただきます。予算枠は、市から提示があるので、その中で人の配置も含めて、こういう事業をやりたいからこの経費が必要ですよということも提案させていただくので、何をこのセンターが目指すのか、具体的な事業と人の配置をトータルして四街道市にお示しする。それは市民にもお示しすることになるのでどっちも利点があるわけです。

白井市さんはそのあたりが少し曖昧になっていたり、責任の所在と誰がそのトータルイメージをつくるのかというところが、ちょっと見えにくい感はあるかなとは思いますが、いかがですか。

[委員] 市民の立場からいくと本当に信頼して相談できる人がそこにいるのかどうかということと、そこへ行けば解決できるのかという、そこが大事なところですよ。だから、それに応えられるだけの力を持っている人がその席にいてもらいたいと思います。なので、それだけの磨きをかけた人が、そこにいてもらいたいなというのが希望ですよ。あとは、すぐ横に市の助けが得られるので、そこでSOSを出しに行くのか、それとも提示だけすればそこで済むのかという部分ではありますが、今の市民活動推進センターはそこまで自分たちがしなければいけないとは思っていないでしょう。

[委員長] ○○委員どうですか。

[委員] 今のところはないでしょうね。

[委員] ですよ。その時間帯は何事もなく、問題もなく。

[委員] そんなに市の機能をわかっているわけじゃないから。

[委員] ですよ。

[委員] そんな相談っていうのもありますよね。

[委員] 自分たちが抱えている団体のことはわかっているけど、聞いてきた人たちにとって、うまくつながるようにコーディネートしたり、ほかの人たちをマッチングするとかはからないですよ。だから、やっぱりそれなりのキャリアを持って、力をつけないとだめですよ。

[委員] ちょっと僕は反対の意見ですが、相談を受け付けた人が答えをその日に出さなくても、いずれご連絡しますという形でもいいんじゃないかと思って。もう一つ突飛な意見は、今、市役所の1階に受付がありますよね、それと同じ人でもいいと思うんですよ。そうすると当然専門性はなくなりますよね。この市民活動の推進の専門性はその人はなくなるけれども、その人は愛想よく受け付けて、いろんな人と相談して、その場でパッとこたえを出さなくてもいいような気がいたします。

[委員] でも、責任持つ人がどなたかみえないといけないわけですよ。

[委員] でも、あんまり偉い専門家が構えているのも近づきがたいです。

[委員] 確かにそうなんですけれども、その受けた人が、必ずその答えを引き出してきて返さなきゃいけないんですよ。連絡をどこにしているのかわからない人では困るわけでしょう。

[委員] もちろんそうです。

[委員] そういうことですよ。

[委員] それは支援課と相談ですよ。

[委員] 推進センターそのものの位置を、支援課とどういうふうに並べるかということによって違ってくるんじゃないですかね。だから支援課を補完するのが支援センターだということにすれば、市の職員も出向できるような体制がとれるようなこともあったほうがいいと思うんですけれども。そうすると、センターさんが言ったことで何かをやっていうときも、あ、そうか、センターは市から委託されてやっているんだから、みんな何かやろうぜっていう話になってくると思うんです。

どうも今、この話を聞いていると、センターがどういう位置かという立ち位置がまだピンと来ないんで、はっきりとセンターさんにこの部分については業務を委託して、市民活動支援課もスタッフが少なく大変なので、それを補完するような形っていうのは、本当に一番いいと思います。この求められる機能が全部じゃないけれども、この部分はぜひともやっていただきたいというのがあって、それでその組織を整備できればいいかなと思っているんですけれどもね。

[委員長] この業務の明確化していくには、こういう意見交換をもっと実施して、今どういうコーディネーターや人が必要なのか議論していく必要がありますね。具体的に白井市のセンターとして何が必要なのか、もうちょっと意見もいっぱい出し合った中で合意がとれたほうがいいんじゃないかと思います。ただ、業務の明確化といわれても、今、何ができていて、この後何ができたらいいなっていうのが、実感をもってなかなか話せないというところですよ。どうですか。

[委員] 補完しながらいくんでしょうね。結局やっている目的は同じでやっていることは一緒って言ったら変ですけども。

[委員長] 補完という言葉でいいんでしょうか、〇〇委員。

[委員] やっぱり協働と連携ですからね。

[委員] 先ほどと関連があるんですけれども、支援課のこれまでの活動で、問題提起がどうもなされてないような気がしています。何が問題で、今、白井市にとって市民活動がどういう位置にあるのか。その辺の分析がしてないんじゃないかなという感じがしてならないんです。その辺の総括みたいな話はないんでしょうか。

[委員長] ですよ。私も同じようなことを申し上げていて、さっきもお出しさせていただいて、年度もきって目標がこのプランに書いてあるんですけども、現状がどこまでできて、評価しつつ、次に向けての問題提起や進め方をもう少し具体的なところでやらないといけないのではないのでしょうか。センターの位置づけも、期待はされているけれども、センター全体で見て、具体的に業務内容としてはこうだよっていうのが、見えにくくなっているんじゃないかなと思いますけれども。そのあたりは、何か事務局としてご意見あります。

[事務局] この市民活動への分析に当たっては、いろんな分析の仕方があると思うんですけれども、一般的には住民の皆様の意識調査だとか、そういったことで市民活動に対する思いだとか考え方だとか、あるいは自分だったら何がしたいかとかっていうようなこ

とが一つあると思います。

もう一つは、今度は実際に実践をされている団体の皆様が、今どういような壁にぶち当たっているのかとか、あるいは、今後どうしていきたいのかっていうようなことがあると思うんですけれども、両方正直申し上げて弱い状態だと思います。

今、まとまったものがないというところが、市としての目指す方向性が見えづらいだとか、これまでの総括がされていなくというところにつながっていると思います。皆さんから貴重なご意見をいただく際にも、そういったような基礎資料がなければ話も進みづらいことをこの場で改めて感じましたので、数少ない部分はあるんですけれども総括して、皆様にそれをもとに議論していただけるものを取りまとめたいと思います。

[委員長] 今日はせっかくですから、あと少し時間ありますけれども、その推進センターの位置づけは市の職員を補完するものっていうあたりと、協働する中身が見えないと、協働できないというところはあるんですけれども、どうですか。基礎的な情報がもうちょっとないと話のしようがないでしょうか。

[委員] 市の業務として活動支援課は何を行うと書いてありますよね。だけれども、この活動推進センターは何を行うというのは、どこかに書いてあるんでしょうけれども。こういうものを作ってほしいっていう求められる機能がいっぱい書いてありますけれども、これもただ羅列してあるだけで、本当に求めるのは何なのかっていうのは、まだできてないですよ。さっきおっしゃったように、いろんな地域のものを集めてきたらこんなのがありましたと。白井市としては、こういったものを作ってほしいんだというのを一回整理したほうがいいと思うんです。それがまさしく〇〇さんがおっしゃったことにもなると思うんですよね。

[委員長] これは一般的な記載でありますよね。

[委員] 全体のほかのやつを見たら、こんなのがありましたっていうのを全部引っ張ってきただけ。

[委員長] 白井市に置きかえてっていうか、白井市はどこを目指すのかっていうのが。白井市の市民活動推進センターはどこをっていうのが必要なわけですよ。

[委員] 今、白井市が小学校区のまちづくり協議会をつくろうっていうことを考えていますけれども、それをするには、市だけでいいのか、地域まちづくりだから推進センターの協力が必要だとか、そこは推進センターさんが中心になってとか。例えば、そういうふうな話があってもいいと思うんですけれども。

私は自治会ですけれども、小学校区っていったらすぐ自治会を思い出します。清水口小学校区は自治会が中心になるのかな。でも、本当はそうじゃないんですよ。だからそこら辺の話が小学校区の中でも、この自治会はこれをやる、社会福祉協議会がこれをやる、そこら辺の連携がうまくとれてないといけないので、そういったものを調整できるような機能は推進センターさんの役割かなと思います。

[委員長] そうるといよいよ推進センターが地域にも出ていく役割も持つとか。

[委員] 市民活動ですから地域じゃなくて。市民活動は地域でも関係ない、市全体だから。

[委員長] そうですね。市なんですけれども、待っているだけではなくて、直接会議の場なり調整機能も果たすためには、多分その現状を見に行行って相對しないと、状況がわから

ないまま調整はできないっていう部分があるので、そういった機能をここに持っていくのかということも出てくるとは思うんですが。

市として、推進センターをやりながら機能を明確にしていくのであれば、富里みたいに直営として、直接雇用した職員がそこに配置されて、市の方針を見据えながら、具体的な事業も市とやりとり調整しながら、スタッフ、コーディネーターもその中で育っていくっていうやり方がいいのかなと思います。

今、運営委員会という形で、市民、団体がこの推進センターの担い手役にもなるっていうことであれば、この運営委員会が、もっと推進センターについてのイメージをきちっと持っていないと、自立性が薄くて形として市民参加、協働にはならないですよ。

どっちがやりやすいんでしょうかねっていうのがありますが、今お話の中で委員のメンバーの中にも推進センターの方がいらっしゃって、推進センター新しく市役所の1階に30年6月をめぐりに行くんだっていう明確な主張を誰が言うのっていうのが、ちょっと見えにくく、中途半端さ感っていうところがあるかなという感じがするんですよ。

担当課もちょっと遠慮がある、センターも責任感は強くて団体としてきちっとやってらっしゃるのはわかっていますが、そこまでの気持ちとスケールを思っているのかどうか。〇〇さんの中には、若い担い手をもっといたらっていう。一生懸命さが幾つになってもあれば。若くなくてもいいんですけれどもね。

[委員] いや、スタッフじゃなくて、委員会のほうだよ。委員会が平均年齢70を超えているからね。

[委員] 今はどこでもそうだよ。

[委員] 今は各団体もそれが一番の悩みというか。

[委員長] じゃあ、団体は、白井市にはいないのかっていう。そういう運営委員会になって、市民参加・協働を進めていこうっていう思いがある団体が、白井市にはいないんでしょうか。70代の人しかかかわれないような形が現状なんですか。

[委員] 私が70で一番若いから。各団体がもうそういう状況なんですよ。だから本当に精一杯頑張っているという状況です。これからもうちょっとみんなで何とかこれから発展する余地はあると思うんですけどもね。

[委員長] そのあたりは、何かどんどん暗くなっちゃいますよね。

[委員] いや暗くないよ、明るいよ、未来はね。私はいつも明るくて、置かれた場所で精一杯頑張っています。

[委員] 市役所にやって来れば、また変わるでしょう。

[委員長] 市役所に来れば、センターは変わる可能性はかなり大きいと思うんです。今、ご意見としてあった運営委員会を構成する団体が結構高齢化して、一生懸命だけれども疲弊している部分もあるというお話だったので、そこ今かかわりのない団体で割と若い団体や、活動始めたばかりでどんどんこれからいろんなこともやりたいという団体、古い団体であったとしてもまだまだ市民参加・協働で市と一緒に何かやりたいっていう団体が、気配としてあるのかなのか。

そういう団体の掘り起こしができていないのか、本当にいないのか。ただ掘り起こしができてないだけだったら、そういう団体をこちら側に向けてもらうにはどうしたらいい

のか。

だから団体が、なくはないじゃないですかってことです。そこが今、見えないだけなんじゃないですかってことなのか、本当にないのかっていう。団体がないんだったら、今の体制の中でよりよい形でせっかくここに行くんだから、その人の配置やコーディネーターの育成も含めて、今のこの形でどう進めていくのかって一生懸命考えないと、もったいないですよ。ただ、まだこちら側に向いてないけれども、人材とか団体が地域にまだ眠っているんだったら、少しそこの掘り起こしも頑張らないとだめだなっていうところですよ。

[委員] そんなところですね。

[委員長] ですよ。

[委員] 私も毎日いるわけじゃないからね、センターにたまに行ったときに、出会える団体の方にはお声かけをして、ぜひ来期はどうですかというようなお話をしていますけれども。そのうちだんだん効いてくるんじゃないですか。

[委員長] 運営委員会の中でも、センターとして目指すものがもう少し明確になっていたほうがいいですよ。

[委員] それは規約が出ているからね。規約にはうたってあるから。きょうは残念ながら持って来てないんですけども。

[委員長] はい、どうぞ。

[事務局] 市内の団体は、先ほど公民館を利用されるような社会教育関係団体のお話も〇〇委員から出ましたけれども、そういう各センターに登録されている団体が数多くあるんですよ。これをまとめていくと100、200ぐらいの規模であったり、あるいはそのセンターに登録はしていないけれども、その地域のちょっとしたお母さんたちが集まったりだとか、近場でお茶しながらってというようなことで活動されているところもあるというふうに思います。

そういうふうなことを考えていきますと、潜在的に私たちがまだキャッチしきれていないっていったところがありますから、〇〇委員がおっしゃったような小学校区でまちづくりを進めていく際には、そういった皆さんの方向性を一つにまとめていけるようなベクトル、それを推進センターもしくは、また公民館などが担っていくことによって、それが参加・協働のまちづくりにもつながっていくんじゃないかなというふうに思っています。

高齢化は進んでいくんですけども、その先にあるものっていうのは、非常にまた厳しい地域コミュニティといたしたところも待ち構えていますので、これを機会に、推進センターと市民活動支援課としては、しっかりと動き出していきたいと思っています。

[委員長] 私ども中間支援組織として16年やってくる中で、いろんな団体とのやりとりがあり、情報はストックしていきました。その情報をストックし、つなぐ機能も高まってきましたが、その機能を持つことで、まちづくり協議会の運営についても、複数の自治会からご依頼をいただき、今日もこの後、八千代市にお伺いして、まちづくり協議会の位置づけや方向性が見つけにくいので、そのあたりを少し整理するお手伝いをさせていただくこともしています。白井市のセンターもこれから市役所にできるのであれば同じよう



な機能を一緒に持っていきましょうということで、その機能を持っていくためには、どこをどう整理したらより仕事、業務がやりやすいのか一緒に考えていきましょうということが、私が今日思うことではあります。

決して、全体に市民参加・協働の意識が低いとか、センターの人たちのやる気がないとかそんなことではなくて、どこかを整理したら、より目的に近づけやすいかということを考えていかないといけないですね。場所を移したけれどもとか、予算はどうなっているのとか、具体的なやりとりも含めて人の配置を広げて、1人配置を2人にすればもっとこんなことができるよとか、こんなことがしたいよっていうようなことを、もっと出し合わないと具体化はしてこないですよ。

[委員] 要は、現状の市民活動推進センターにかかわっている団体は、まだ限られた団体だから、それ以外にたくさん活動センターに来ていない団体があると思うんですよ。そういうところには人材が豊富にあるから、その辺と今後の連携をしていく部分で、人材の確保っていうのは可能ではないかなと私は思います。

[委員長] その確保した人材を、またコーディネートして、同じ方向を向いて進めていくということもしないと、センターの運営には直接結びつかないかなとは思いますが。

[委員] 要するに、組織っていうものをこしらえればいいわけだから、共通の目的として、みんなが考えていることは一緒だと思いますよ。安全で楽しいまちづくり。これがまず第一だと思うわけですよ。それで私も白井に越してきて、非常に白井自体がいいまちであると思っているし、今、越してきた方、その方のお子さんというのは、白井をふるさととして生まれた方だから。そういう方が、白井をよくしようという意識が皆さんお持ちだと思うので、目的を一つにすればいい運営ができるんじゃないですか。

[委員長] 推進センターの具体的な事業とそこをどう結びつけていくかところも、ぜひその組織の中でご協議いただくとか、ここの委員会の中でも少しまた出し方の工夫っていうんですかね。今日も散漫になってしまうっていう進め方の不手際もあるんですけれども、どういう出し方をお互いにするか、出すための基礎資料はどういうものが必要で、どういう出し方をしたら、よりここの内容が深められるかっていうのは、30年6月ですかね、移転までの準備のスケジュールの中で、少し場が持てればなというふうに思います。

今日は、資料もない中で議論しても、時間がかえって無駄になるかなと思いますので、また改めてこういう機会をもっていければなと思いますが、いかがでしょうか。

[事務局] 欠席されています〇〇委員と〇〇委員からご意見をいただいておりますので、最後の時間で披露させていただきたいと思います。

まず、〇〇委員は、白井駅前センター長というお立場で、日ごろ公民館活動運営の中でつくづく感じているものとしては、つなぐという、この5番の機能が重要だと思うというお話でした。いろんな団体があっても単独に動いていて、その力をうまくつなげれば、もっともっとインパクトのあるような取り組みができるということです。

そしてつないでいくためには、6番の人材育成といったようなことをスタッフ、それからその団体でもやっていかないことには、この交流促進につなぐといったようなことが起きにくいと思うので、人材育成とセットで進めていくべきだと思います。それから、

実際に進めていく際には、地域の課題に基づいて進めていかないと、せっかくやったものが課題解決に結びつかないというようなことで、7番の調査・研究というのもあわせて重要かと思えますというようなことでした。

それから、〇〇委員からは、具体的な形ではないんですが、今こそ新たなスタートを図るチャンスですと。市民参加あるいは市民活動に参画してくださる人材、参加者を増やす工夫が何よりも大事で、今の時点で8つの機能の優先順位づけをつけるのは難しいけれども、とても大切な点だと思いますというような話をいただいております。

[委員長] ありがとうございます。〇〇委員、何か感想でもいいですが。

[委員] 私は市民活動とは関係のない違うところで40何年育ってきちゃいましたので、すごいなと思いました。

[委員長] あと、余りご発言のない委員の方。〇〇委員、何かありますか。

[委員] 今の推進センターにかかわることなんですけれども、私もセンター業務で約5年になります。ほかのセンターも見てきました。それで形としては、市の直営、それからうちのように入団体が運営委員として活動してセンターを運営している。それからもう一つは、先ほど言ったNPOが全部そこの業務を受けて、その中にコーディネーターがいるというところもあり、このように三つのセンターの運営がありますので、白井市はどういうふうこれからいくのかなというのは、新しくなる段階でちょっと心配です。

今うちのセンターは1人体制なんですよね。それでスタッフが5人でローテーションにて回しています。単純に言えば、受付業務等がメインですよね。そのほかに講座があったり、それから広報とか、そういうものを各委員の方と一緒にやっている状況です。

[委員長] 今、センター運営の担い手組織としては、形が三つあるけれどもっていったところを、市がどんな形を選択していくのかってお話ありましたけれども、委員としてどの形がいいのか、今センター担っている運営委員の人たちも、ご意見をきちっと市に出していただいたり、スタッフとしてもそうなんですけれども、委員の人たちも少し意見を聞きたいということなんですよね。

まだ市としては、どの形がいいか、市だけで判断するのではなくて、こういった委員会のメンバーの人とか、担い手である運営委員の人たちにも、委員会の人にも聞いていくということで、きょう時間をとっていただいたということなので、ぜひスタッフの皆さんとか運営委員会を含めて、意見調整を市とやっていただければなと思いますし、まだ結論が少し先でも大丈夫っていうことですかね。

[事務局] もうそろそろで夏前ぐらいには具体的なことを。

[委員長] ですよね。夏前ぐらいをめどにしながら、意見のやりとりをしていくことが大事かなと。この形は市が決めちゃったんだって、となると一生懸命かかわってきた人にとっても、それから委員の方たちにとっても、ふがいない話になると思うので、そこは一緒に総意としてつくっていくってことで考えていければと思います。

[委員] じゃあお言葉に甘えて。建設委員会ってというのは、もう終わったんでしょう。

[事務局] 庁舎ですか。庁舎を建設するための委員会の中でも、このセンターの設置について、かなり議論されてきました。

[委員] もう解散したんでしょう、あれ。解散してないの。

[事務局] やっていると思います。ちょっと詳しくはわからないのですが。

[委員長] でも、建設委員会の中できつとポジショニングが高かったから、一番いい入口のところセンターを持ってこようって話になったんですね。

[委員] だから細かいことは、どっちかっていうとこっちの委員会のほうに。

[事務局] 実際の運営については、こちらの課の。

[委員長] 予算なんかもまだ明確には出せないんですかね。その事業規模っていうんですか、人の配置も含めてっていうあたりは。

[事務局] そうですね。ただ、かなり厳しい現状は現状なんですけれども、きちんとどういう機能でこういうことをするのでということによって要求はしていく形になると。

[委員長] それは夏でも間に合うんですか。

[事務局] 夏前だから、もう年度明けて、ある程度決まった中で、市としてこういう方向でというのが決定して、それから予算と。当然、議会との関係もありますけれども。施設としてのきちんとした設置の条例を制定していかないといけないと考えています。今、ざっくりとしたスケジュールなんですけれども、設置の条例は、9月議会ぐらいには上程できればいいなというふうには考えていますけれども。

また推進センターと、先ほど図面で紹介させていただきましたけれども、多目的スペースについても、やはり市民協働、市民活動のスペースということで、一体的に庁舎の中には設けられていますので、そことの関係もあります。まずは推進センター、その先には多目的スペースの関係をどうするか考えていくことになると思います。

[委員長] まだ間に合う継続的な議論という感じで、スケジュールは頭に入れておいてよいということですね。

[事務局] はい。

### (3) 今後の会議日程について

[委員長] じゃあ、最後になります。今後の会議日程についてということで、事務局のほうからお願いいたします。

[事務局] それでは、第3回目の会議は2月20日の月曜日、2時から4時半ということで決まりまして、メールにて皆様にはご報告をしています。

それから、第4回の会議が公開プレゼンテーション、審査ということで、3月1日の水曜日です。団体の申請数によって、午前と午後と両方させていただく場合もありますし、団体数が残念ながら伸び悩んでしまった場合には、午後のみということもあり得ますので、今のところ10時ぐらいから夕方ぐらいまで、またスケジュールのほうを皆様ご予定いただけたらと思います。2月上旬ぐらいには、その結論を出したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それから、今年度最後の第5回の会議なんですけど、ご予約をお伺いしたところ候補三つございます。3月17日の金曜日の午後と、3月22日の水曜日の午前中、同日22日の午後、この3パターンなんですけれども、皆さん都合の悪い方がいらっしゃいましたら、手を挙げていただきたいと思います。

3月17日の午後2時から4時を予定したいと思いますが、ご都合が悪い方は挙手をお願いします。よろしいですか。あと、念のため3月22日の水曜日の午前中、ご都合が悪い方。22日水曜日の午後、ご都合の悪い方。

そしたら、3月17日の金曜日の午後2時から4時ということで開催させていただければと思います。きょう欠席の2名の委員の皆様も、ご予約は合うということで伺っていますので、第5回目は3月17日の金曜日、午後2時から4時までということでご予約いただけたらと思います。

先ほど申し上げましたとおり、2月上旬に団体からの申請書類のコピーを郵送させていただきます。なるべく皆様お忙しい中でも、じっくりと見ていただける時間をつくるように努力してまいりますので、皆様にもどうぞご協力をよろしくお願いいたします。

事務局からは以上になります。

[委員長] 全体を通して委員の皆さんから、何かご意見等、不明なところありますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、第2回市民活動推進委員会、終わりにさせていただきます。どうも皆さんありがとうございました。

資料1 平成29年度白井市市民団体活動支援補助金 [募集要項]

資料2 市民団体活動支援補助金の周知・PRと相談・問い合わせ状況について

資料3. これからの市民活動推進センターのあり方について